

令和元年度 第2回静岡市文化振興審議会議事録

- 1 日 時 令和元年9月26日(木) 14時～16時30分
- 2 場 所 静岡市葵消防署 5階 52会議室
- 3 出席者 (委員)
平野会長、川内委員、河村委員、是永委員、佐々木委員、田中委員、
中村委員、森委員
(市当局)
中島まちは劇場推進監、萩原まちは劇場推進課課長補佐
草分参与兼文化振興課長、小山課長補佐兼文化交流係長
仲澤施設管理係長、竹林主任主事、八木非常勤嘱託
- 4 傍聴者 1人
- 5 会議内容 1 開 会
2 議題
(1) 静岡市文化振興計画 前期実施計画
平成30年度評価総括書について
(2) 静岡市文化振興計画 中間年次評価について
(3) 静岡市民文化会館の再整備について
前期実施計画評価総括書について
3 事務連絡

【議事録】

(平野会長)

審議の開始にあたりまして、本日の審議会は議事録についても一般に公開することとなっております。議事録の作成にあたっては、会長や委員が内容について確認し、署名することとなっております。署名者として二人必要ということですので、私のほかにお一人お願いしたいのですが、今回は是永委員にお願いしたいと思います。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

議題1「静岡市文化振興計画前期実施計画平成30年度評価総括書について」事務局より説明をお願いします。

(事務局 小山)

<静岡市文化振興計画前期実施計画平成30年度評価総括書を説明>

(川内委員)

2 ページの⑦ これは私が書いたのですが、平野さんが静岡大学で平成 28・29・30 年とアートマネジメント人材育成ワークショップをやっていて、私も講師として参加させてもらったことがあります。静岡大学がやっており、市が主催していなかったのがこのように書かせてもらいました。非常に実務的であり、面白くレベルの高い講座だったと思います。市としての取組ではありませんでしたが、静岡市内で静岡市民を対象にこのようなことが行われていたことを考えれば「スキルを磨く場所がない」という表現はやや不適切だと思いました。結構よい取り組みだと参加して感じました。

(佐々木委員)

末尾の語句を変え「少ない」にしたらどうでしょうか

(川内委員)

そう読み替えてもらいたいです。大学というより、市や市内の団体等で、このような機会があればいいなという思いを受け止めいただければと思います。

(平野会長)

全くないわけではありませんが、圧倒的に少ないですね。

ご存じのとおり、川内さんは記者をまとめる役割をされているので、私が講師として依頼をしました。記者の方にどのように記事を書いてもらえるかは、テクニックだけではなく何か一緒にやっている話だったり、どうやって関係を作っていくかという話だったり、多岐に渡った良い話だったので、ぜひ川内さんも講座に入っていていただけて積極的に展開していただけたらありがたいです。

他にはいかがでしょうか。

(河村委員)

1 ページ「2. 視点からの意見等」の(2)改善すべき点の①に「カラダを使った鑑賞」という表現があります。具体例を加えて何々などのカラダを使った鑑賞にした方がいいと思います。イメージはわかるが具体的に何なのか。観る文化は「鑑賞」というジャンルがあるくらい大切です。「鑑賞」は一般的に美術鑑賞・映画鑑賞のように使われますが、「カラダを使った鑑賞」というのは何なのか。具体例が入るとわかりやすく、それに類する取り組みを増やしていきたい、といったほうが分かりやすいかと思います。

(平野会長)

市ではありませんが、ロダン館のロダンの作品に直接触るという鑑賞があります。静岡市も街中に多くの作品が展示してありますが、見るだけではなくて場合によっては触っていいわけですよ。そういう鑑賞の仕方でしょうか。

(河村委員)

作品に直接触れるということが「カラダを使った」ということです。

コンサートでもリズムをとったり参加したり、ダンスとかパフォーマンスとか見る・聞くだけではなく五感をフルに活用したとか。

(平野会長)

「加えて作品に触るなど五感を使った鑑賞」という表現にしていくというのはいかがでしょうか。そのほうが改善すべき点のイメージがしやすいでしょうね。

中村委員なにかお気づきの点ありましたでしょうか。

(中村委員)

3 ページ創造的にぎわいづくり (2) 改善すべき点②は自分で書いたのですが、分かりづらいなど思いました。「人気の高いフリーペーパー、企業が提供するアクセス数の多いWEBに目立つ仕方」が分かりにくいです。月刊誌などでキャッチコピーだけでこれ何だろう?と思ったことがあったのでそういう形で紹介してみてもどうか、という意味合いです。

「しずおかるた」については、今は販売しているのでしょうか。生活協同組合の理事をやっていまして被災地で仮設住宅に暮らす方に、静岡らしさを感じてもらうために静岡っぽいお菓子・お茶・遊べるようなものを送っています。「しずおかるた」がいいなと思ったのですが、販売しておらずイベント等で配布しているとのこと。今は図書館などで展示しているようで、手に取ることはできるが実際に遊べたりすることができません。県外に発信して皆の目に触れるようにしていただきたいなと思い、このように書きました。現状はどうなっているのでしょうか

(平野会長)

皆さん「しずおかるた」はご存じでしたか。静岡の様々なクリエイターが集まって一人幾つかのカードを担当してもらいイラストを作成し、文章はコピーライターが作ったものです。静岡市全体をPRする「かるた」ということで話題になりました。静岡のCCCで展示し、その後記事になったりもしていました。

有料で販売しているのでしょうか。

(事務局 草分)

現状を確認してみますが、販売していないようなら販売を含めて発信をしたいということでしょうか。

(中村委員)

そうです。

(平野会長)

まだまだ市内で知らない方も多くいると思います。県外へ、もしくはそこに横文字がついて世界発信していくことになるかもしれません。

(河村委員)

「しずおかるた」は、私も名前やニュースで見たことがあり、言葉として物として残すのは賛成ですが、評価総括書という全体を評価する中で、大道芸やシズカン等と急に横並びになって出てきてしまうのでしょうか。「しずおかるた」の認知度が違うと思います。評価総括書の中に違和感・唐突感が出てきてしまうように思います。改善すべき点に、「地域のPRに効果的であるため、県外にも発信して欲しい」とあるように静岡をPRしていくには良いツールだと思います。静岡のCCCで展示された「しずおかるた」がすごく良いという文章を肉付けし、静岡の文化を県外へ発する「しずおかるた」という企画が良いとしたらどうでしょうか。

(平野会長)

唐突感があるのでちょっと説明が必要でしょうか。

(河村委員)

評価総括書の中で押しに見られてしまう可能性がある中で「しずおかるた」など地域のPRに効果的・文化的なツールで県外にも発信していく取組に力を入れていくべきである、というような言い方のほうが唐突感が薄れ、なお且つ意味合いが繋がっているのではないかと思います。

(平野会長)

「しずおかるた」のもう一つの特徴は、様々なクリエイターが参加したというところにあると思います。その部分を補い、おっしゃっていただいた部分を入れていくということでしょうか。

(河村委員)

唐突感は一個人の感想なので皆さんはどう感じられるかわかりませんが、肉付けしてあげたほうが評価総括書の中では良いのかなと思います。

(平野会長)

そういう意味ではP3の創造的にぎわいづくり(1)評価できる点の⑦も同じ視点のように思いますがいかがでしょうか。

(河村委員)

並び方を変えれば唐突感はなくなると思います。「若いエネルギーは素晴らしい。例えば、高等学校応援団フェスティバルの熱気などで見られるような心意気に圧倒される」のように入れ替えれば成立すると思います。最初に固有名詞が来てしまうとちょっと気になります。

(平野会長)

様々な事業があつて様々な取組をしている中、ここだけ何故取り出して評価しなければならないのかという話にもなってきます。ですからおっしゃっていただいたように順番を変えてその一例として出てくれば、それで成立すると思います。ご指摘ありがとうございます。

(事務局 草分)

書き方ですが、③番のところはもう1つ4を増やして、またはCCCのところは肉付けするのとどちらがよいでしょうか。「しずおかるた」に触れるところは一つだと長いので二つに分けて入れたほうが良いのか。このまま③番に加えて記載していくことで良いでしょうか。

(平野会長)

「しずおかるた」について説明すれば成立するという事ですよね。

(河村委員)

はい。そうすれば成立するので続けて書く方向でいいかと思います。

(平野会長)

今いただいている問題の箇所についての細かい部分の詰めは、私と事務局でやらせていただいて、今回の審議会の時にご確認いただくということによろしいでしょうか。

(事務局 草分)

「しずおかるた」についてCCCに確認したところ、現在、販売はしていないとのことです。要望があれば検討しますが、具体化はしていないそうです。

(川内委員)

需要が見込めて、事前にどこかの施設が一定のペースで買い取ってくれればということでしょうか。また、クリエイターが絡んでいることで著作権が絡んでいることはないのでしょうか。

(佐々木委員)

そこがクリアできれば問題なさそうですね。

(平野会長)

他にはないでしょうか。森委員、何かありますか。

(森委員)

すんなり全部入ってきたので大丈夫です。

(平野会長)

田中委員はいかがでしょうか。

(田中委員)

言い回し等を再度確認してください。

(平野会長)

是永委員はいかがでしょうか。

(是永委員)

集客が少なくても評価が高いということは非常にいいなと思います。どうしても数だけで評価されてしまうので、「少なくても」という言葉が入ることは良いと思います。

(平野会長)

創造的にぎわいづくり(1)評価できる点⑥「たとえ1回の集客が少なくても」がそれに該当する部分ですね。集客が少なくても間違いなく文化が創り出したにぎわいであり、このあたりの評価をどうしていくかということもありますが、こういう一例があるということに意味があるかと思います。

他はよろしいでしょうか。

(まちは劇場推進課 萩原)

まちは劇場推進課の萩原と申します。P3～P4今後の方向性のところで③「学校で行うオーケストラ事業が父兄と一緒に楽しめる行事になっていて良かった」と書いてあり最後に「地域の人にも楽しめると良い」と書いてあります。実際は、地域の方にもお声掛けさせていただいています。オーケストラ事業は非常に短期間でやっていて、学校側には参加人数により会場に余裕があれば地域の方にお声掛けして下さいとお願いしています。

学校によっては、地域の方も参加していただいていますのでその点だけお伝えしておこうと思います。

(平野会長)

そういう機会を作っておくということですね。

「もう少し楽しめると良い」という表現で、そういう意味合いを含めるといいですね。

(田中委員)

今、父兄という言葉は使わないですね。保護者ですね。

(平野会長)

そこは修正しましょう。ありがとうございます。

では次の議題に移らせていただきます。

【文化振興課計画の中間評価】事務局よりご説明をお願いします。

(事務局 小山)

< 静岡市文化振興計画 中間評価を説明 >

(平野会長)

事務局からの説明と、問題提起がありました。皆様の率直なご意見をいただければと思います。

創造的人づくりの「普段から、芸術文化等の鑑賞や創作・参加を通じた体験などの活動をしている市民の割合」が 20 ポイント減少したのは有り得ないですね。

(森委員)

これは、市内限定のことでしょうか。例えば静岡市の人が宝塚を見に行ったら、それは該当しないとか。

(事務局 草分)

静岡市民がどのように文化に触れたかの話なので、それも含まれます。平成 28 年度の調査と今年度の調査の属性に違いはあまりありませんでした。

(平野会長)

前回と今回でアンケートに答えていただいた属性が同じであり、性別等の違いが無いとなると 20 ポイントの差の説明が難しいですね。

その大きな要因として考えられるのが「家庭内でのテレビ鑑賞・音楽鑑賞を除きます」が設問とは別枠で表示されていたか、同じ設問の中に表示されていたということで、これが影響したのではないかという分析ですね。

(川内委員)

場所は違えど、一応示しているということでは同じですね。

(平野会長)

各調査とも、「家庭内でのテレビ鑑賞・音楽鑑賞を除きます」と設問内に示しています。ただ、回答する皆さんがどこまで読んでいるか、設問の中に入っていれば当然流れの中で読みますが、別枠の中に入れていることで、これがどう影響したかは想像の域を超えませんが…。

それに加え、家庭内のテレビ鑑賞・音楽鑑賞といったものを、芸術文化という観点から今後どこまで見ていくか。

(川内委員)

インターネットとか環境の変化は大きいと思います。パソコンからダウンロードして音楽を聞いたり映像を見たりすること、これも芸術に触れることには間違いはないし身近になったととらえるべきであろうと思います。ただ、人が実際に外へ出て芸術文化に触れる・体を動かすということは、芸術振興の中の「にぎわいづくり」に関してすごく大事なので、そこは今後分けて聞いたほうがいいのではと思います。

(佐々木委員)

視点3「創造的にぎわいづくり」の割合は我々が考えているとおりだが、視点1「創造的人づくり」の割合とつながらない。視点2「創造的の魅力づくり」の割合はまあまあ理解できる。視点1「創造的人づくり」の割合の減少を見ると、設問の受け止め方が違ったと考えざるを得ない。設問の形が変わったことが影響していると考えられます。設問の見せ方を前と変えているので、そのことが結果に効いていると思う。「家庭内でのテレビ鑑賞や音楽鑑賞を除きます」という、わざわざ家庭内の鑑賞を外す設問自体、今どき意味があるのかと考えたほうがいいと思う。ただ、テレビがずっとついているだけでは鑑賞とは言えない。例えば、家族の中で誰かがギターを弾いていて、それを家族が聞いている、これは家庭での音楽鑑賞になります。わざわざ対象から除くことはないと思います。家族でコンサートすることは素晴らしいことではないですか。そのため「家庭で」と対象を外すことは考え直したほうがいいかもしれません。鑑賞形態は多様化しています。ただ、アンケートは変化を見たいのであまり変えたくない。2022年の目標値であるため、途中で設問内容を大きく変えるとなると恣意的な操作があったのかと思われるため、取り扱いを慎重にはしたいところです。

(平野会長)

設問を工夫し説明がつけばというところですね。

(田中委員)

テレビ鑑賞とひとくくりにしてしまうのは、あまりにも乱暴です。例えば、私は早朝6時台のNHKBSのクラシックを見たりしますし、日曜美術館などの美術番組とか民法でも放送していてそれを見て十分満足していますから。

(平野会長)

それが行動に結びついたりしますよね。そのあたりが上手く説明できるなら設問を変えていく必要があると思います。

(河村委員)

除外する項目をどうしようか考えるのではなく「上記芸術文化等は家庭内（テレビ・PCなど）で鑑賞も含めます」と肯定系にしたらどうでしょうか。定期的に割合を計らなければならないのでここをあまり変えてしまうのは良くないですが、今後の1つの案として否定形ではなく肯定系にすることに

よって最初の大前提を使いながら、ああそうなんだ、ただテレビつけっぱなしにしておくのではなく音楽とかそういうものをテレビで見ることも芸術文化等に入るのだと思うのかなど。

(佐々木委員)

これからテレビも4K・8Kとどんどん進化していき、モナリザが高画質で見えますといった話があります。そうすると更にテレビでの「美術鑑賞」が増えるかもしれない。これはしっかり考えなければなりません。

(中島推進監)

前回と今回の聞き方の違いは、括弧の「家庭内でのテレビ鑑賞や音楽鑑賞を除きます」を設問の近くにおいたか・おかなかったかの違いです。今回は近くにおいたので個人で考える「芸術鑑賞」のレベルを上げたり下げたりした可能性があります。こういった調査において質問を変えるのは問題があるので、それは難しいかと思います。一方で、文化芸術活動に関する説明がざっくりとしていて、きちんと定義したものを持っていないので、これってなんだとなっている。

スポーツではスポーツ・イン・ライフという考えが出てきています。スポーツの目的は健康長寿であるから階段を上ることもスポーツではないかと議論がでて、体を動かすことはすべてスポーツというように、スポーツの範疇を広げています。「体を動かして」というメッセージが入っているのだと思います。表現をどこまでという上げ下げの感覚が難しく、設問は変えることができないので、離すか・近くにおくくらいしかできないかなという感覚ですね。

(事務局 草分)

アンケートはそれを受け止める側といいますか、送られた方が芸術文化をどう考えているのかによって答え方が変わってきます。近くにこの説明書きがあったことから、テレビで映画を見るのはダメかなと受け止めると、自分はテレビでしか見ていないから該当しないと判断され、割合から抜けてしまうと思います。

鑑賞形態が多様化している中では、少しでも触れてもらう機会が多くなる、そういうところを「創造的人づくり」の基本とし、その先に次の行動に移ってもらうところを重く受け止めたらと思います。

(平野会長)

中島推進監が話して下さったように、但し書きが設問の近くにあったかどうか非常に大きい要因に繋がっているのではないかという考え方がひとつあります。また、テレビ・放送というものがネット環境の中で非常に危機感を覚えている、どの様なプログラムを発信したらいいのかということもあるかもしれません。また、そういった影響か、美術・音楽のプログラムも多様化し増えてきている。それをどう扱っていくか、どこまでの範疇をどうとっていくか難しい問題が付きまとっている現状ですね。

(川内委員)

今話を聞いていて思ったのですが、インターネットやテレビなどを含めると地方ほど「創造的人づくり」に係る割合が上がる可能性が出てくる。都市部ほど生ライブや非常に高いレベルのプレイヤーが身近にいて、聞く機会があればむしろそちらのほうで非常に満たされ、インターネットやテレビの媒体を見る機会が少なくなる。極端な考えかもしれませんが生で聞く環境が無いとそういうところへの依存度が高まる、そういう気がしたのですが。

(中島推進監)

1つ疑問に思っていて…ネットとか色々な環境が整って選択肢が広がれば広がるほど芸術文化の把握が難しいと感じます。「生」は芸術文化であり、それ以外は違うと思う要素はある意味正しいのかなと思ったり。そこら辺が良く分からないです。本当に設問で割合が動いたのか、このような多様な環境だからこそ皆の芸術文化に対するハードルが上がってきたのかどちらか分からない。

まちは劇場という言い方をすると、家で聞いている事はあまり評価したくない。「にぎわい」というところではそうかもしれないが。スポーツ・イン・ライフ的な考えで行くと、どんな形態であれそういうものを欲しいと言える環境であることを評価したいと思う。それがネットやYouTubeであったとしても。もちろん、ネットでそういう良いものを見ることができると、「生」を見に行こうとはならない。外へ出て行くモチベーションにもならない。

(川内委員)

ネット環境の進化というのは日進月歩なのでこういうのも入れた設問のほうがいいのではないでしょうか。

(事務局 草分)

進歩している状況というのは確かにあると思うので、今のご意見をいただいて設問の在り方とかを考えていきたいです。今回は数字として結果が出ています。今後広報課で調査全体がまとめ次第、年明けには全体の結果が公表されます。それまでにはここの整備をさせていただきますので、表現についてはご相談させていただきたい。

(佐々木委員)

最近はメディア芸術という言葉があって漫画やアニメも入っている。それを入れるだけでだいぶ違いますよ。

(中島推進監)

そうですね。ぐっと上がりますね。今回の基本法の中にもキチッと入ってますね。ジャンルも含めて整理する必要があると思います。

(佐々木委員)

そうですね。海外では、それが圧倒的に今の日本文化となっていて、それをツールに世界に広がっていています。

(事務局 草分)

今まで考えていた芸術文化の枠組みが今や広がってきたことを考え、最終的な結論はご相談させていただきます。市として何が人づくりに繋がっているのかをちゃんと把握できるようにしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(平野会長)

皆さんのご意見をキチッと受け止めて柔軟に対応していくという事でよろしいでしょうか。

ちょっと話がずれますが「フィルターバブル」という言葉ご存じでしょうか。インターネットは実は広がりを作るのではなくむしろ阻害していく、「いいね」を押ししていくことは実は壁を作っている事に繋がる。そういう言葉もあり、ネットというものは良い方向に向いていないという考え方もあるということを入れて吟味していくと面白いかもしれません。

ありがとうございます。では次の議題に移らせていただきます。

静岡市民文化会館の再整備について、事務局よりご説明をお願いします。

(事務局 草分)

<静岡市民文化会館の再整備について説明>

(中島推進監)

付け加えさせてください。

この「静岡市駿府町地区文化・スポーツ施設整備方針」は去年までのものになります。何を検討していたかという、中央体育館とプールと文化会館の敷地にアリーナを作れるかどうかという検討をしていました。物理的にはアリーナは入っても、実際に施設として使うにはもっと色々な要素があるということから、何が分かったかという「アリーナは入りません」という事がわかりました。それなら文化会館を改築するのか改修するのかという選択肢が残るわけですが、施主が考えますからと引き取りました。企画レベルで考えるのではなく施主が考えると。今日、皆さんには、今年何をやるのか、改修でいけるのか、改築しなければいけないのかということをはっきりさせるために伺いたい。その指標がここです。文化会館を作るときの指標ではないです。マーケットの整合性というのは改修に制約があるのでそれが現実にマーケットに対して入れられるのか、そうではないのか。今こぞっても改修レベルには限界があるので、今普通に求められる新築のスペックに対してどうか。中途半端にならないかが②。

③コスト面では改修のほうが少し安いです。耐用年数を含めて判断材料にコストって非常に大きいんです。④明らかに改修のほうが期間は短く、改築に変更すると長いという事を考慮しましょう。新約書というのがいますがそれは色々なステークホルダーの中の1つ。一方ワークショップもステークホルダーの1つで、分析しすべての人から適当な方向から聞くという事やっていく。

そういう状況を踏まえたうえで皆様からご意見いただいて参考にさせていただきたいという事です。よろしくお祈いします。

(平野会長)

なぜこの審議会でこのことを図らなければならないのかというと、条例の第21条に「文化の振興に関する重要な事項」という項目がある。これに係るという事で審議が行われるという事を理解してよろしいでしょうか。

(中島推進監)

まちづくりという大きな方向性の中で、こういう場が非常によろしいということです。

(佐々木委員)

私がこの数年で色々な市民会館や文化会館の建て替えや改修に関わった中で、京都市が文化会館50年で建て替かどうかの話がありました。色々すったもんだありまして、基本的には外観を残し、機能はすっかり変えてかかった経費が50億。京都市は財政危機なので美術館の改修は京セラが出資していますが、美術館は会館と違ってコレクションが色々あるので名前を付けられるのかどうか。会館の方は、今まで音響が悪かったのが一気に良くなったという事とホールを全部で3つ稼働することにして大・中・小とした。私として不満があるのは、創造型劇場には踏み切れなかったことです。ご存じのとおり、文化庁は通常の機能・社会補助性というものは入れてくださいという点でいくとちょっと物足りないなと感じた。改修で成功はした。周辺整備も上手くいった。それから、今、四国の香川県丸亀市が文化会館を造ろうとして県に認められています。これははっきりした方針が出ていない。岐阜県の可児市にある芸術センター、これは館長の方針で社会包摂型と決めている。ですから年間を通じて様々な公演やワークショップを行っているのですが、そういうのをベースにして来年4月に。市民懇談会は市民が半数位参加できる形で、また社会包摂型というので注目されている。参考までに。

(中島推進監)

市政80周年に日本平動物園を造って、市政90周年に文化会館を造った。旧静岡市の非常によい建築物なのでそれも考慮に入れなければいけないと思う。

(平野会長)

そうですね。静岡市としての顔を持っていますよね。40歳にして。

質問でも結構ですし、どんなところからでも結構です。今日この時間内では語り切れないと思うのでこの問題については次回にもこの話をしようと思っています。どんな質問でも結構です。ここどうなってるのとか。

(河村委員)

私は牧之原出身で9月に駿河区へ引っ越してきたばかりですが、昔から会館があることは知ってい

ます。歴史だったり、何かしらの公演だったりと使わせてもらったことがあるのですが、せっかく価値のあるものだからと見学会とか今までであったりしたのでしょうか。今の小・中学生はポケモンの何かがなければ行かないみたいですが、せっかく近くに価値あるものがあるのに、よく知る機会が今までであったのかなと思います。色々な話を聞いて自分も参加してみたいなと思いました。

(平野会長)

市民文化会館は様々な歴史を作ってきた場所で、様々な人が文化会館をバックに写真を撮っていたり、そういうものを市民に呼び掛けたりして集めたこともありましたよね。市政 30 周年でしたか、そういうものを展示したりして色々な物が集まったと聞いています。様々なシーンで生活と深くかかわるメモリアルな場所であることは静岡市民にとっては間違いないですね。

(川内委員)

市民文化会館の後継みたいな感じでしたっけ。

(中島推進監)

駿府会館は昭和 55 年に解体したと思いました。

県民会館といって、今の市役所が建っているところも公会堂みたいなものがあって、その代替えとして本格的なしっかりとした舞台設備のある一流のホールを造ろうと決議されました。バックスペースの話がありましたが、客席だけではなくてステージの広さとか機構はキチッとしたものです。

(森委員)

ダンスアカデミーなので本当に市民文化会館様様で、私の初舞台も大ホールでした。5・6歳の時です。すごく思い出があるので、この話が出たときにすごく寂しい気持ちもあれば、すごくワクワクする気持ちもあって、踊り手としては長い歴史の香りとかを嗅ぐたびに古いけど新鮮な気持ちになって、この舞台公演を成功させようという気持ちになる。緞帳もすごい歴史のあるものですよね。緞帳も次に活かしてほしいです。

また、中ホールはホールが回るが大ホールは回らないとか中ホールと大ホールの違いもあるし、「ラクダ」というカフェでジュースを飲んでドキドキを紛らわしていた思い出もあります。全部取り壊して次新しいのを造るのも良いし、改修でも良いし。トイレも少ないと思ったり色々ありますが、舞台を使っている人たちにはすごい思い入れのある場所なので良い部分を残しながらという思いはあります。

(平野会長)

森さんは世界に出たのは文化会館のおかげだったのですか。

(森委員)

そうですね。文化会館に学びました。

(川内委員)

私も高校生の時、吹奏楽で指揮をしたのが非常に強烈な思い出です。地元の人は皆そういう思いを持っています。残したい部分と客観的なところである程度の整合性をとるということは、あそこを使ったアーティストとかに使い勝手だとか音響だとかでやると思います。使い勝手を聞いて改善する点、地元の思いなど残すところの折り合いつけていくような事は大事なのかなと思います。

あと、静岡という場所にどれだけのレベルの人が来て、そこにお金を落としてくれる地元の人がどれだけいるのか。聞き手とアーティストなど舞台に立つ人の意向、今まで舞台に立ったことのある人がどんな印象を持っているのかは情報として聞きこんでいるのかなと思います。

(中島推進監)

音楽のマーケットや演劇はきちっと聞いていかないと考えています。静岡市の文化会館はこの周辺を中心機能を持っています。浜松まで行くと、アクトシティやエコパがありますが、使う側のアーティストやプロモーターから選ばれるということは非常に重要なことですから、ここはきちんとヒヤリングしていこうと。今後のマーケットの方向性を含めて考えていく必要があります。

(田中委員)

私は、静岡市と同じ政令市の堺市で生まれて育ちました。堺市文化会館という古い建物があったのですが、180億円をかけて完全にリニューアルするそうです。4年前にプロデュースされ、マーケティングとそこに入れるソフトウェアと全部入れて、ようやく来月グランドオープンします。それがダウンしたら堺市が困りますけど、たまたまそういった例を見ていて、ハードだけの問題では無いなど。これからの会館はそこを考えなくてはと思います。市民の皆さんの思いや使い勝手があるのですが、どの様に成り立たせようという部分をリサーチする。興行的に成り立てるには、建設と同時に埋め込んでいかなければ成り立たない。

(森委員)

市民文化会館が休館の間、市内の会場使用の点でほかの施設利用者との戦いが始まると思うのですが、ここが休館している間に市が代わりに提供してもらえるような場所がほかにありますか。

(中島推進監)

改修がよその施設と被らないよう調整はするが代替というのはなかなか難しい。グランシップの改修は来年9月から翌3月まで。法律が変わって天井を壊さなければならない。その改修ですね。

(田中委員)

いずれにしる、PFIを適用するのでしょうか。

(中島推進監)

それも検討しなくてはなりません。仕込みをどうするかなども。現実的にはPFIでないともわらないと考えています。

(平野会長)

是永委員はたいぶ文化会館を利用しているようですが。

(是永委員)

いつ使えなくなるかなど現実的なことが気にかかりますが、将来的に見て良い文化会館を造ってもらいたい。ただ感じるのが、今までのものでよいのではないかと言っている人が多いということです。耐震があるんだからしょうがないよ、と説明しています。使い勝手から言えば、小さい団体にとって非常に使いやすいと思っています。

(中島推進監)

老朽化の中に空調などがありますが、舞台機構に問題があります。最低限改修は必要であり、何かはしないといけない。

(田中委員)

文化振興財団の指定管理の施設ですから仲間から話を聞くけれど、老朽化がひどく進んでいるらしい。配管設備が特にひどいようです。

(中島推進監)

コンクリートは持ちますが、40年はさすがにきついです。

(川内委員)

それによって呼べないものも出てきていますか。

(田中委員)

それはいいですね。呼べないものというより、ホールは規格が決まっています。その町そのエリアで一番小屋・二番小屋・三番小屋というのが決まっています。もちろん東京でも決まっています。それによって来るソフトが決まってくる。クラシックなら順位があって。静岡エリアでは何を呼ぶかにもよりますが、クラシックですと絶対静岡には来ないですよ。浜松かな。やる内容によりホールが決まっている。何をやるのかを踏まえ、ソフトウェアを組み込んでいくことになると思います。

(平野会長)

マリナーも、今、結構来ていますね。

(中島推進監)

マリナートはキャパ1700人ぐらいかな、少し小さい。

(田中委員)

大ホールでは何をやる、中ホールでは何をやるかを踏まえて、建る時からソフトウェアを組み込んでいく必要があります。

(平野会長)

難しいですね。ものすごい総合的作業です。

(川内委員)

室内楽に特化すると他に難ありで、ある程度パブリックの地方のホールで多目的なものや専門的なものの判断が難しいのかなど。何をやりたいのかが1つですね。

(中島推進監)

まさにそれを皆さんに聞いているところで、演じたい人もいる、見たい人もいる、何か作りたい人もいる。何がしたいのか、そのために何が必要か、それが改修の中ではまるかばまらないか。

(川内委員)

AOIとのすみ分けはどうですか。

(中島推進監)

AOIは室内楽用ですから残響を保っています。AOIがありますから、あまり残響時間が長いホールは作らない。良くも悪くも関係を保っています。マリナートがすごく良いといっても残響はあまりないです。しょうがないですね専用ではないから。

(田中委員)

座席はしんどいですね。すべてを満たすのは難しいですね。何をメインにするかを考えなくてはなりません。今、このように考えているという話をオープンにしていかななくてはなりません。

(平野会長)

それが中島さんが言った様々なステークホルダーにヒアリングしているという事に繋がるわけですよ。

(中島推進監)

パーフェクトというのは無理ですが。

(中村委員)

私も市民文化会館がメモリアルホールとはつゆ知らず、なんか見直してみようかなと思いました。いつも慌てて行く事が多かったのです。

(平野会長)

慌てて行って慌てて帰らざるを得なかったですか。

(中村委員)

慌てて帰ることはあまりないですが、子供と一緒に何か見に行くことが多いです。ただ、お手洗いが今の状態では良くないですね。ぐるっと回っていくのがまどろっこしいなと感じました。

(森委員)

ホワイエもないですし、今の使い方からだと狭いですね。でも、そうするとどんどん大きくなっていきますが。

(中島推進監)

どんどん大きくなってしまいますね。ただ、建ぺい率が非常に厳しい所でありますから。お城の中だからしょうがないですね。

(中村委員)

建てられるところはどの部分でしょうか。

(中島推進監)

バラバラではなく大きい範囲で考えようとしています。今まで使える環境とかこの範囲で考えましようと言ってきました。今回は中央体育館とは別々ですが、中央体育館と連動することもあるかもしれません。例えば国際会議とかやった場合、中央体育館がプレスセンターになって文化会館が会場になる場合もある。あるものを使う、全体を使ったときにどう使うかと考えますが、新築となるとちょっとどうかとなる。改修となったら外側は動きませんし。少し増築するとかしかできないでしょう。敷地を考えると現実劇になるかもしれません。

(平野会長)

これに関しては様々な問題があると思いますが、もう一度皆さん様々な事例や資料を参考に少し勉強という恐縮ですが勉強いただきつつ、あくまでもこの施設がどうあったらいいのか、それぞれの立場で考えてきていただければと思います。そして、何か事務局にこんな資料を用意してほしいというものがあつたらなるべく事務局に用意してもらおうようにしてもらい、次回話していければと思っています。

ありがとうございました。

いったんこれで今日の3つの議題につきましてはご意見を頂戴しました。

特に1つ目の平成30年度の評価総括書、これについてご意見を伺いましたので事務局と私で整理しまして次回会議にはからせてもらいたいと思います。

それでは、次回の予定等事務局からお願いします。

(事務局 草分)

皆様ありがとうございました。今回の事で何かお気づきの点がありましたら事務局へご連絡いただければと思います。

次回の第3回審議会ですが11月21日午後4時から予定しております。また近くになりましたらご通知を送らせてもらいますが、その時までには文化会館の検討も進んでまいりますので情報提供しながら皆様からご意見をいただければと思っています。

(平野会長)

その間にワークショップも進んでますよね。

(事務局 草分)

ワークショップが10月18日に、11月20日に第3回目が行われます。

次回11月21日の時点では3回目のワークショップが終わっている状態ですので、詳しくお伝えできると思います。

(平野会長)

ちなみにそのワークショップにこのメンバーは参加できますか。

(事務局 草分)

それは大丈夫です。日時と場所をメールでお知らせします。

(平野会長)

内容は公開していますか。

(事務局 草分)

これからどんどん公開していきます。

(平野会長)

できるだけ多くの人参加してもらいたいですね。

(事務局 草分)

それがいいですね。では、よろしいでしょうか。

以上を持ちまして令和元年度の第2回文化振興会議を終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。